



13

保存に向けて

竹内農場西洋館は、地域の歴史を知る上で重要なランドマークであることが、次第に知られるようになってきています。当 NPO 法人は今後も関係機関と連携しながら、西洋館の価値を PR し、保存活動への理解と協力を得たいと思います。

竹内農場西洋館の敷地が平成 27（2015）年 12 月、竹内一族の所有から太陽光発電事業者に変更されたことを端緒にして、龍ヶ崎市は所有者から敷地を借り受け、西洋館の建造物としての価値と史跡としての価値、両面で調査に乗り出しました。その結果判明した新事実の主なものは次のとおりでした。

①農場は、竹内鋳業の付属施設として竹内明太郎が開設した。

②竹内鋳業の農場は他にもあり、ここの農場は牛久かめい農場と呼んでいた。妻の亀井と共に度々訪れている。

③西洋館は、農場に付随するものではなく竹内明太郎の別荘として建てられたもの。請け負ったのは太田圓七建築部で設計者は不明。

④竹内農場庭園は長岡安平という当時一流の造園デザイナーによってつくられた。

⑤レンガの産地を示す刻印が 2 箇所から見つり、埼玉県深谷市の日本煉瓦製造（上敷免）製であった。

龍ヶ崎市による調査の結果は、平成 30（2018）年 4 月 21 日に市役所の会議室で報告され、一般市民や関係者の理解と関心を高めました。

なお、この報告会に先立ち、市と当 NPO 法人とが情報を共有するため、同年 3 月 19 日に市が事前説明会を開催しました。市からは主管課長ほか 2 名、当 NPO 法人からは前田理事長と役員 4 名の計 5 名が出席しました。

これまでに当 NPO 法人では、平成 29（2017）年 9 月 3 日の「竹内農場西洋館イベント」、平成 30（2018）年 11 月 18 日の「竹内農場西洋館 見学会&フォーラム」、

令和元（2019）年 12 月 7 日の「竹内農場西洋館フォーラム」を、市の協力の下開催しています。

一方、当 NPO 法人からは前田理事長が令和元（2019）年 5 月に小松市・金沢市に、6 月に宿毛市を訪ね、竹内家に関して得られた調査資料を、文化・生涯学習課に提供して情報の共有に努めております。

令和元（2019）年 10 月 3 日（木）には、コマツ粟津工場から執行役員岡本工場長ほか 4 名の皆様が、竹内農場西洋館の見学に訪問されました。当会からは前田理事長ほか 4 名が、また龍ヶ崎市からは文化・生涯学習課のやなとり梁取課長がご案内に当たりました。そしてそれぞれ手持ちの資料を提供しました。

龍ヶ崎市は平成 30（2018）年に竹内直馬の子孫より建物を寄贈していただきました。一方、土地については賃貸借を継続する方向であるとのことでした。

こうした中、龍ヶ崎市は、令和 2（2020）年 1 月 22 日、「旧竹内農場赤レンガ西洋館及び竹内家文書」を市民遺産に認定しました。

さらに、市は市民が西洋館をいつでも見学できるよう、外周柵を整備し敷地内に駐車スペースや説明板を設置する工事を行い、3 月末までに完了する予定です。

コマツ（株式会社小松製作所）との今後の協力関係は未定ですが、私たち NPO 法人は情報共有が出来る関係を築きたいと思います。

また、龍ヶ崎市と連携を図りながら、フォーラムなどを開催し、竹内農場西洋館の保存意義をこれからも広くアピールしていきたいと思います。